

黒部市民病院新改革プランの点検・評価
(令和元年度実績)

令和2年8月

1. はじめに

黒部市は、平成27年3月に新たに総務省から示された「新公立病院改革ガイドライン」を受け、平成29年3月に「黒部市民病院新改革プラン」を策定しました。

この新改革プランの期間は平成28年度から令和2年度までの5年間で、黒部市病院事業運営協議会の中で毎年、点検・評価・公表を行うことといたしました。

2. 評価方法

目標に対する評価を以下の区分で行いました。

区 分	評価の内容
A	目標以上に達成されている
B	目標が達成されており一定の実績がある
C	目標が未達成で実績不足である

3. 点検・評価

令和元年度の点検・評価は、「医療機能等指標に係る数値目標」「経営指標に係る数値目標」について行いました。

次頁 黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価①～④

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(令和元年度)①

【資料3-1】

項目・区分等		最終目標 (R2年度)	単位	目標設定の考え方	R元年度 目標	実績	取り組みと実績及び課題等	自己評価																															
医療機能等指標に係る数値目標	紹介率	50.0	%	地域の医療機関との連携を進めるため、紹介率・逆紹介率の向上を目指す。	50.0	60.3	<p>・医師、看護師、事務など病院全体で取り組んだ結果、目標数値を達成。令和元年6月1日より地域医療支援病院に認定された。ただ、今後もこの数値を維持する事が求められ、院内での努力はもちろん地域の開業医への協力を引き続き呼びかけていく。</p> <table border="1"> <caption>紹介率・逆紹介率の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>平成24年度</td><td>28.2%</td><td>15.9%</td></tr> <tr><td>平成25年度</td><td>28.4%</td><td>18.0%</td></tr> <tr><td>平成26年度</td><td>29.2%</td><td>21.3%</td></tr> <tr><td>平成27年度</td><td>30.6%</td><td>21.9%</td></tr> <tr><td>平成28年度</td><td>33.4%</td><td>24.8%</td></tr> <tr><td>平成29年度</td><td>35.5%</td><td>36.4%</td></tr> <tr><td>平成30年度</td><td>53.3%</td><td>88.8%</td></tr> <tr><td>令和元年度</td><td>60.3%</td><td>94.0%</td></tr> </tbody> </table>	年度	紹介率	逆紹介率	平成24年度	28.2%	15.9%	平成25年度	28.4%	18.0%	平成26年度	29.2%	21.3%	平成27年度	30.6%	21.9%	平成28年度	33.4%	24.8%	平成29年度	35.5%	36.4%	平成30年度	53.3%	88.8%	令和元年度	60.3%	94.0%	A				
	年度	紹介率	逆紹介率																																				
	平成24年度	28.2%	15.9%																																				
	平成25年度	28.4%	18.0%																																				
	平成26年度	29.2%	21.3%																																				
	平成27年度	30.6%	21.9%																																				
平成28年度	33.4%	24.8%																																					
平成29年度	35.5%	36.4%																																					
平成30年度	53.3%	88.8%																																					
令和元年度	60.3%	94.0%																																					
逆紹介率	70.0	%	令和元年6月1日より地域医療支援病院に認定された。要件である紹介率50%、逆紹介率70%以上を今後も継続していく。	70.0	94.0		A																																
新入院患者数	8,650	人	基幹病院としての役割を果たし、新入院患者数の増を目指す。	8,590	9,030	<p>・紹介率の上昇に伴い新入院患者が増えている。 ・平均在院日数については前年と同じ。急性期病院としての機能が維持されており、今後も目標数値達成に努める。</p> <table border="1"> <caption>新入院患者数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>患者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>平成24年度</td><td>8,008人</td></tr> <tr><td>平成25年度</td><td>8,263人</td></tr> <tr><td>平成26年度</td><td>8,497人</td></tr> <tr><td>平成27年度</td><td>8,358人</td></tr> <tr><td>平成28年度</td><td>8,388人</td></tr> <tr><td>平成29年度</td><td>8,568人</td></tr> <tr><td>平成30年度</td><td>8,776人</td></tr> <tr><td>令和元年度</td><td>9,030人</td></tr> </tbody> </table>	年度	患者数	平成24年度	8,008人	平成25年度	8,263人	平成26年度	8,497人	平成27年度	8,358人	平成28年度	8,388人	平成29年度	8,568人	平成30年度	8,776人	令和元年度	9,030人	A														
年度	患者数																																						
平成24年度	8,008人																																						
平成25年度	8,263人																																						
平成26年度	8,497人																																						
平成27年度	8,358人																																						
平成28年度	8,388人																																						
平成29年度	8,568人																																						
平成30年度	8,776人																																						
令和元年度	9,030人																																						
初発がん受診患者数 注)数値の確定には2年を要するため変動有	600	人	がん診療連携拠点病院として初発がんの受診患者数の増を目指す。	600	594	<p>・がん診断、治療体制の充実に努める。 ・他の医療機関との連携強化に努める。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(件)</th> <th>診断のみ</th> <th>診断・治療</th> <th>他施設診断・治療</th> <th>計</th> <th>治療有計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>68</td> <td>529</td> <td>76</td> <td>673</td> <td>605</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>44</td> <td>513</td> <td>83</td> <td>640</td> <td>596</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>49</td> <td>499</td> <td>95</td> <td>643</td> <td>594</td> </tr> </tbody> </table>	(件)	診断のみ	診断・治療	他施設診断・治療	計	治療有計	平成29年度	68	529	76	673	605	平成30年度	44	513	83	640	596	令和元年度	49	499	95	643	594	B								
(件)	診断のみ	診断・治療	他施設診断・治療	計	治療有計																																		
平成29年度	68	529	76	673	605																																		
平成30年度	44	513	83	640	596																																		
令和元年度	49	499	95	643	594																																		
内視鏡手術件数 注)内視鏡センター施行分除く	900	件	高度な医療の提供状況の把握として、内視鏡手術件数の増を目指す。	900	624	<p>・前年度より35件増加している。今後、挿管が必要となる全身麻酔の手術自体が伸び悩む可能性があり、内視鏡手術も伸び悩む懸念がある。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(件)</th> <th>外科</th> <th>整形外科</th> <th>産婦人科</th> <th>泌尿器科</th> <th>耳鼻科</th> <th>呼吸器外科</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>116</td> <td>111</td> <td>137</td> <td>103</td> <td>45</td> <td>0</td> <td>512</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>125</td> <td>116</td> <td>134</td> <td>119</td> <td>52</td> <td>43</td> <td>589</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>135</td> <td>115</td> <td>125</td> <td>128</td> <td>42</td> <td>79</td> <td>624</td> </tr> </tbody> </table>	(件)	外科	整形外科	産婦人科	泌尿器科	耳鼻科	呼吸器外科	計	平成29年度	116	111	137	103	45	0	512	平成30年度	125	116	134	119	52	43	589	令和元年度	135	115	125	128	42	79	624	B
(件)	外科	整形外科	産婦人科	泌尿器科	耳鼻科	呼吸器外科	計																																
平成29年度	116	111	137	103	45	0	512																																
平成30年度	125	116	134	119	52	43	589																																
令和元年度	135	115	125	128	42	79	624																																
救急患者に占める入院患者の割合	20.0	%	救急の適正な利用状況の把握のため救急患者の入院者数の割合を一定以上に保つ。	20.0	20.2	<p>・目標数値を達成しており、今後も地域救命センターとしての役割を担っていきたい。</p> <table border="1"> <caption>救急患者の割合の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>平成25年度</td><td>15.7%</td></tr> <tr><td>平成26年度</td><td>17.1%</td></tr> <tr><td>平成27年度</td><td>16.7%</td></tr> <tr><td>平成28年度</td><td>17.5%</td></tr> <tr><td>平成29年度</td><td>17.7%</td></tr> <tr><td>平成30年度</td><td>19.2%</td></tr> <tr><td>令和元年度</td><td>20.2%</td></tr> </tbody> </table>	年度	割合	平成25年度	15.7%	平成26年度	17.1%	平成27年度	16.7%	平成28年度	17.5%	平成29年度	17.7%	平成30年度	19.2%	令和元年度	20.2%	B																
年度	割合																																						
平成25年度	15.7%																																						
平成26年度	17.1%																																						
平成27年度	16.7%																																						
平成28年度	17.5%																																						
平成29年度	17.7%																																						
平成30年度	19.2%																																						
令和元年度	20.2%																																						

自己評価：達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(令和元年度)②

【資料3-2】

項目・区分等	最終年度 (R2年度)	単位	目標設定の考え方	R元年度		取組	実績	課題	自己評価	黒字病院平均																															
				目標	実績					H28	H29	H30																													
経営指標に係る数値目標 1/3	経常収支比率	96.7	%	経常収支比率は病院の経営全体を、医業収支比率は本業での収支をみるための指標であり、100%が損益の分岐点となる。改革プラン期間中は多額の減価償却費の影響により、100%超えを目標とはしない。	96.7	98.5	<ul style="list-style-type: none"> 一般病棟入院基本料1(旧7対1看護体制)の算定継続 看護師の確保 地域医療支援病院の認定 新たな施設基準の取得 	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療支援病院の認定・総合入院体制加算3の取得による収益の改善 経常収支比率、医業収支比率、減価償却費を除いた医業収支比率のすべて目標を達成 	<ul style="list-style-type: none"> 一般病棟入院基本料1(旧7対1看護体制)の維持 	A	102.7	102	102.7																												
	医業収支比率	95.0	%		95.0	98.9	<table border="1"> <caption>経営指標の推移 (平成26年度～令和元年度)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>経常収支比率</th> <th>医業収支比率</th> <th>減価償却費を除く医業収支比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度</td> <td>100.0%</td> <td>100.8%</td> <td>110.6%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>98.7%</td> <td>100.0%</td> <td>107.4%</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>98.5%</td> <td>98.9%</td> <td>107.9%</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>96.5%</td> <td>97.1%</td> <td>108.7%</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>95.1%</td> <td>95.1%</td> <td>106.3%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>98.5%</td> <td>98.9%</td> <td>109.4%</td> </tr> </tbody> </table>			年度	経常収支比率	医業収支比率	減価償却費を除く医業収支比率	平成26年度	100.0%	100.8%	110.6%	平成27年度	98.7%	100.0%	107.4%	平成28年度	98.5%	98.9%	107.9%	平成29年度	96.5%	97.1%	108.7%	平成30年度	95.1%	95.1%	106.3%	令和元年度	98.5%	98.9%	109.4%	A	95.5	96.1	97.1
	年度	経常収支比率	医業収支比率	減価償却費を除く医業収支比率																																					
	平成26年度	100.0%	100.8%	110.6%																																					
	平成27年度	98.7%	100.0%	107.4%																																					
平成28年度	98.5%	98.9%	107.9%																																						
平成29年度	96.5%	97.1%	108.7%																																						
平成30年度	95.1%	95.1%	106.3%																																						
令和元年度	98.5%	98.9%	109.4%																																						
減価償却費を除いた医業収支比率	106.5	%	上記2つの指標には特殊要因として増改築事業にかかる減価償却費が含まれるため、これを除いて106%以上を保ち将来の黒字化につなげることを目標とする。	107.1	109.4	<table border="1"> <caption>経営指標の推移 (平成26年度～令和元年度)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>経常収支比率</th> <th>医業収支比率</th> <th>減価償却費を除く医業収支比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度</td> <td>100.0%</td> <td>100.8%</td> <td>110.6%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>98.7%</td> <td>100.0%</td> <td>107.4%</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>98.5%</td> <td>98.9%</td> <td>107.9%</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>96.5%</td> <td>97.1%</td> <td>108.7%</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>95.1%</td> <td>95.1%</td> <td>106.3%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>98.5%</td> <td>98.9%</td> <td>109.4%</td> </tr> </tbody> </table>			年度	経常収支比率	医業収支比率	減価償却費を除く医業収支比率	平成26年度	100.0%	100.8%	110.6%	平成27年度	98.7%	100.0%	107.4%	平成28年度	98.5%	98.9%	107.9%	平成29年度	96.5%	97.1%	108.7%	平成30年度	95.1%	95.1%	106.3%	令和元年度	98.5%	98.9%	109.4%	A	104.4	104.8	105.6	
年度	経常収支比率	医業収支比率	減価償却費を除く医業収支比率																																						
平成26年度	100.0%	100.8%	110.6%																																						
平成27年度	98.7%	100.0%	107.4%																																						
平成28年度	98.5%	98.9%	107.9%																																						
平成29年度	96.5%	97.1%	108.7%																																						
平成30年度	95.1%	95.1%	106.3%																																						
令和元年度	98.5%	98.9%	109.4%																																						
給与費対医業収益比率	53.5	%	病院の職員数が適正かどうかを判断する指標。看護師等の人員増の計画もあるが、当院では退職手当負担金を除き最終的に51%以下に抑える。	53.0	50.1	<ul style="list-style-type: none"> 適正な職員配置 出退勤の管理 	<ul style="list-style-type: none"> 医師2名増員 看護師は、臨時職員を含め10名増員 	<ul style="list-style-type: none"> 医業収益増に向けた取組 人件費の適正化 	A																																
退職手当負担金を除いた給与費対医業収益比率	50.8	%		50.4	48.2	<table border="1"> <caption>給与費対医業収益比率の推移 (平成26年度～令和元年度)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>黒字病院</th> <th>当院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度</td> <td>51.7%</td> <td>46.9%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>50.1%</td> <td>48.4%</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>50.1%</td> <td>48.5%</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>53.0%</td> <td>48.7%</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>51.9%</td> <td>50.3%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>50.1%</td> <td>48.2%</td> </tr> </tbody> </table>			年度	黒字病院	当院	平成26年度	51.7%	46.9%	平成27年度	50.1%	48.4%	平成28年度	50.1%	48.5%	平成29年度	53.0%	48.7%	平成30年度	51.9%	50.3%	令和元年度	50.1%	48.2%	A	53.0	51.9	50.7								
年度	黒字病院	当院																																							
平成26年度	51.7%	46.9%																																							
平成27年度	50.1%	48.4%																																							
平成28年度	50.1%	48.5%																																							
平成29年度	53.0%	48.7%																																							
平成30年度	51.9%	50.3%																																							
令和元年度	50.1%	48.2%																																							
材料費対医業収益比率	25.3	%	医業収益に対する材料費の割合を示す指標。平成27年度の黒字病院平均以下を目標とした。	25.3	27.5	<ul style="list-style-type: none"> 材料ごとの個別価格交渉 全国的なベンチマークの活用 薬品見積依頼業者数の制限を視野に入れた交渉 	<ul style="list-style-type: none"> 価格交渉値引効果 薬品1.22%削減(約17,500千円) 診療材料0.3%削減(約3,094千円) 医薬品のジェネリック移行 R1年度末86.1% 	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品のジェネリック移行推進継続 85%以上を目指す(DPC係数関連) 薬品費の削減 	C	24.9	26.1	26.7																													

自己評価：達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(令和元年度)③

【資料3-3】

項目・区分等	最終年度 (32年度)	単位	目標設定の考え方	R元年度		取組	実績	課題	自己評価	黒字病院平均																										
				目標	実績					H28	H29	H30																								
経営指標に係る数値目標 2 / 3	院外処方箋発行率	85	%	薬剤師の人員確保が困難な中、薬剤師の入院患者関係業務への比重拡大のため院外処方箋発行率の増を目指す。	84.0	80.8	・院外処方の推進	・対前年0.4ポイント改善(80.4%→80.8%)	・透析患者へ拡大	B	黒字病院平均 県内自治体病院平均 85.0 85.4 90.3																									
	一日当たり外来患者数	840	人	他の医療機関との機能分化・医療連携を進め外来患者数の減を目指す。	850	835.3	・逆紹介の推進 ・地域医療支援病院の機能周知	・対前年 一日当たり外来患者数 内科 + 1.8人 小児科 △ 2.4人 泌尿器科 + 3.7人 麻酔科 △ 4.5人 他 計 △ 2.2人 (「診療科別患者数及び診療収益の比較表」参照)	・他医療機関とのさらなる連携に向けた地域医療連携室の体制強化	A	910	932	943																							
	一日当たり入院患者数 (一般のみ/ 405床)	320	人	一般病棟入院基本料1(旧7対1看護体制)を維持するため一日当たり入院患者数は320人以下とした。	320	325.8	・積極的な退院支援	・対前年 一日当たり入院患者数 +8.8人 病床利用率 +2.1%	・円滑な入院支援 ・感染症指定医療機関としての役割を果たしていく中での一般患者に対する入院体制維持	B	317	329	330																							
	病床稼働率 (一般のみ/ 405床)	84.0	%		84.0	80.4	<table border="1"> <caption>病床稼働率と平均在院日数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>病床稼働率 (%)</th> <th>平均在院日数 (日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度</td> <td>85.5%</td> <td>14.4日</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>90.2%</td> <td>14.7日</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>83.9%</td> <td>13.9日</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>82.8%</td> <td>13.6日</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>80.4%</td> <td>12.9日</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>78.3%</td> <td>12.2日</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>80.4%</td> <td>12.2日</td> </tr> </tbody> </table>			年度	病床稼働率 (%)	平均在院日数 (日)	平成25年度	85.5%	14.4日	平成26年度	90.2%	14.7日	平成27年度	83.9%	13.9日	平成28年度	82.8%	13.6日	平成29年度	80.4%	12.9日	平成30年度	78.3%	12.2日	令和元年度	80.4%	12.2日	B	(参考)病床利用率 74.7 72.9 71.9	
	年度	病床稼働率 (%)	平均在院日数 (日)																																	
	平成25年度	85.5%	14.4日																																	
	平成26年度	90.2%	14.7日																																	
平成27年度	83.9%	13.9日																																		
平成28年度	82.8%	13.6日																																		
平成29年度	80.4%	12.9日																																		
平成30年度	78.3%	12.2日																																		
令和元年度	80.4%	12.2日																																		
平均在院日数 (一般のみ/ 405床)	13.4	日	適正な入院期間の推進により在院日数の短縮を目指す。	13.5	12.2	・地域医療連携室社会福祉士、看護師等による積極的な退院支援の実施 ・クリニカルパス見直し ・ベンチマーク等による適正值報告	平均在院日数 前年と同じ	・社会福祉士、看護師等による更なる退院支援の為に人員・体制構築 ・急性期以降の退院先機関との連携	B	13.0日 /425床	11.9日 /453床	11.7日 /453床																								
一日当たり外来単価	17,000	円	症状の安定した患者を地域の医療機関に逆紹介することにより単価増を目指す。	16,700	18,843	・新たな施設基準の取得 ・専門医療、急性期医療を必要とする患者の他の医療機関からの積極的な受入れ	・対前年 1,509円増 (17,332円→18,843円) ・高額な注射・投薬による増収	・紹介、逆紹介患者の推進 ・他の医療機関との顔の見える関係づくりの強化	A	13,670円	13,685円	14,058円																								
一日当たり入院単価	53,500	円	新たな施設基準の取得、紹介・逆紹介の推進により入院単価増を目指す。 R1 52,000円 R2 53,500円	52,000	50,504	・新たな施設基準の取得 ・コンサルティングによるDPC制度の院内研修 ・急性期医療終了後の他の医療機関への積極的な患者の紹介 ・ベンチマークシステムを活用した適正な診療方針の検討	・対前年 942円増 (49,562円→50,504円) ・地域医療支援病院に認定(R01.06~) ・総合入院体制加算の取得(R01.10~)	・一般病棟入院基本料1(旧7対1看護体制)の維持 ・総合入院体制加算・地域医療支援病院の要件維持 ・コンサル・ベンチマークの検討内容を周知・実行する組織体制 ・ハイケアユニット入院医療管理料を目指した取り組み	B	55,480円	53,401円	55,070円																								

自己評価 : 達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(令和元年度)④

【資料3-4】

項目・区分等	最終年度 (R2年度)	単位	目標設定の考え方	R元年度		取組	実績	課題	自己評価	黒字病院平均			
				目標	実績					H28	H29	H30	
経営指標に係る数値目標 3 / 3	医師の確保 (年度末職員数、初期研修医除く)	72	人	神経内科医もしくは精神科医、呼吸器内科医等常勤医が1人の診療科の複数人体制を目標とする。	72	72	・金沢大学及び富山大学の医局との連携 ・常勤医1人診療科における複数人体制	・年度末 医師数72名 ・神経内科、精神科、呼吸器内科の増員なし(R2.4 精神科医1名増)	・診療ニーズの高い呼吸器内科、神経内科、精神科等増員を継続要望(複数人体制の確立) ・関連大学医局との密な情報交換及び連携強化	B	78人	88人	87人
	看護師の確保 (年度末職員数)	330	人	一般病棟入院基本料1(旧7対1看護体制)の維持のため、人員増を図る。	330	314	・県内・近隣県の看護学校訪問 ・看護学生向け病院見学会の実施 ・看護部スマートフォン対応ページの充実 ・看護学生奨学金及び看護職員奨学金返還助成金を創設 ・一部病棟で二交代制の試行	・看護学生奨学金 2名 看護職員就業補助金 3名 ・二交代制の本格実施(全8病棟中2病棟で導入)(令和2年3月)	・産休・育休・介護などライフステージに合わせた多様な働き方の提案 ・ワークライフバランス推進	C	358人	408人	398人
	他会計繰入金対医業収益比率(資本的収入分含む)	7.9	%	一般会計において負担すべき経費について繰入比率のアップを図る。	8.0	6.4	・一般会計として負担すべき経費を整理し、繰出を要望	・前年度比20,273千円の繰入増	・今後も収支見通しに基づいた繰入額の確保	B	11.4%	11.6%	11.1%
			他会計繰入金の繰入額	他会計負担金	他会計出資金	繰入金合計							
		平成29年度	596,559千円	30,000千円	626,559千円								
		平成30年度	623,000千円	30,000千円	653,000千円								
		令和元年度	643,273千円	30,000千円	673,273千円								
現金保有残高	1,800	百万円	増改築事業等で借り入れた企業債の償還が徐々に始まり将来的に資金の減少が見込まれるが、キャッシュフロー残高は改革プラン期間中増加を図る。	1,700	2,040	・予算の策定や執行において経費の削減や収益増が見込まれる事業に対する投資を推進	・入院・外来収益の増	・企業債償還への対応と現金の確保	A				

自己評価 : 達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

4. 病院事業運営協議会委員からのご意見

- ・看護師確保について、特定行為研修などの活動をもっとアピールし、確保の推進・PR強化を継続してほしい。
- ・新型コロナウイルス感染症により、病院の経営状況は大変であるが、市民の皆様に罹患しないように気を付けてもらいながら、新川医療圏の中心病院として対応してほしい。